



弘大農学生命科学部 同窓会会報

第25号

平成19年6月4日発行
発行 弘前大学農学生命科学部同窓会
TEL 0172-36-2111
FAX 0172-39-3750
振替 02340-7-564
印刷 (株) 笹 軽 印刷



深めよう母校との絆を！

同窓会長 三 上 ^{たつみ} 巽

同窓生の数6,265名となる

同窓生の皆さん！私共の母校、国立大学法人弘前大学農学生命科学部の同窓生数は学部創立から半世紀余を経て、この3月23日の卒業式をもって6,265名（卒業生5,648名、修了生617名）を数え

るところとなりました。

この少なからぬ数に学部創立にご尽力なされた大学当局及び青森県・市町村・農業関係者はもとより、創立後における教職員並びに地元・地域関係各位、そして忘れてならないのは卒業・修了後、各分野・各々の立場でご活躍なされている同窓生



農学生命科学部校舎（2007年春）

の皆さん方のご尽力・ご支援があったればこそと、ここに関係者の一人として感慨無量の想い禁じ得ないものを覚えます。

農学生命科学部の現況は

平成18年度版「弘前大学概要」によりますと国立大学法人 弘前大学は

- ①「学部」は、農学生命科学・理工・医・教育・人文の4つの学部で構成。
- ②「大学院」は、農学生命科学研究科を始めとする9つの研究科で構成。

これらの教育研究組織構成のもと、学部入学定員は1,350名（収容定員5,720名）、大学院入学定員は325名（収容定員810名）、学部・大学院合計の入学定員は1,675名（収容定員6,530名）となっております。

このような状況のもと「農学生命科学部」は次の4つの学科（入学定員185名、収容定員740名）から構成されております。

- ①生物機能科学科
（入学定員40名、収容定員160名）
- ②応用生命工学科
（入学定員50名、収容定員200名）
- ③生物生産科学科
（入学定員55名、収容定員220名）
- ④地域環境科学科
（入学定員40名、収容定員160名）

また学部関連「大学院」は

- ①農学生命科学研究科（修士課程：入学定員60名、収容定員120名）
- ②岩手大学大学院連合農学研究科（博士課程：

入学定員24名、収容定員72名）となっております。

独法化後の大学・学部は大競争の渦の中

私共の母校、弘大農学生命科学部も平成16年4月1日から国立という国直轄の組織から国立大学法人という名もとの独立行政法人に改変移行し、既に3年が経過しました。一方、巷間マスメディアは「大学全入時代到来」と声高に報じている中、青森県弘前市を拠点として設置・運営されている弘前大学、その中での農学生命科学部の今後の興亡の鍵は「顧客である進学志望者並びに産・学・官共同連携等をも含めた地域社会貢献に期待する地元関係者を始めとする顧客たる外部の方々から見ての“弘大・農学生命科学部の研究・教育両分野の実力・実績の評価如何”」に掛っているといえます。

絆を深め母校にエールを

6,265名の同窓生の皆さん！私共の母校・弘大・農学生命科学部の現況並びに今後の興隆に想いを馳せ、各自各所において、各々の立場・機会を活かしながら、母校の持続的な興隆・発展に向けご支援ご協力いただくことを願って止みません。

平成19年5月18日に開催された弘前大学同窓会理事会におきまして、三上巽会長は弘前大学同窓会の会長に選出されました。

事務局

事務局から

平成17-18年度総会で「弘前大学農学生命科学部同窓会における個人情報取り扱いについて」が制定されました。支部会開催などで、会員情報が必要な際には「同窓生情報活用依頼書」を郵送またはファックスでお送り下さい。様式は会報第23号（2005年6月1日発行）の10ページにあります。

同窓会ホームページ（<http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/>）からもダウンロードできます。



卒業証書の“値段”

農学生命科学部長 高橋 秀直

本学部『五十年史』を予定より1年遅れて3月末に漸く刊行することができました。遅延のお詫びと同窓会の多大のご援助に感謝申し上げます。

『五十年史』の一部を執筆するために農学部創立の頃の歴史を改めて調べました。興味深かったことは、当時の留年率の高さです。初の農学部入学生は1952年度入学の41名でしたが、4年後に卒業した者はわずか8名、留年して卒業した者が12名、残る21名は他学部へ転学部したり、退学したと見られます。留年率は8人÷20人として実に60%もの高さでした。10%を超えても評価に影響する今日の大学では考えられないことです。

第1回卒業生8名のなかには後に本学部教官となった者が2名、本学部を卒業しなかった20名を追跡したところ医学部に転じた者が3名、そのうち1名は後に医学部の外科学教授となったことが分かりました。当時の学生の活気、大学の雰囲気伝わってきます。

私が大学に入学したのは1963年ですが、興味関心がある講義以外はほとんど出席しませんでした。それでも出席は多い方で、講義で一度も見かけたことがない同窓もいて、そのなかには後にテレビ会社の社長になった者、朝日新聞の編集委員になった者、政党の幹部になった者もいました。そんな学生生活でも難なく卒業できたのは、先生が単位をくれたからです。大学は、先生にとって研究の場、学生にとっては時に先生の研究から刺激を受けながら何かを勝手に学ぶ場という“暗黙の了解”が存在していました。

以上は、昔の話。いまは、やることがないので講義に出てヒマを潰し、出欠で評価することを学

生が要求し、大学が厳格な出欠管理にチエを絞り、親に成績書を送る時代です。他方、永い間入学の難易度で学生を評価してきた経済界などが、打って変わって学生の“品質保証”を要求するようになりました。大卒採用の3人に1人が3年以内に辞める状況と採用した学生を息長く育てる余裕が企業に無くなってきたことによるのでしょうか、大学で遊んで勝手に育つ状況でなくなったことが根底にあるように思います。

そうであれば、卒業証書は、なにも保証していないタダの紙切れでしかないかも知れません。卒業証書の“値段”を試算してみました。4年間で入学金・授業料が242万円余、自宅外通学であれば生活費が月10万円として480万円、計722万円余になります。722万円も払ってタダの紙切れでは、早晚世の批判を浴びることになります。

かくて、“品質保証”が大学のキャッチ・コピーとなり、教員は“教育改善”に追われることになりました。隔世の感ある大学の今昔ですが、嘆くべきではないと思います。社会に役立たないものは淘汰されるのが歴史の常道。大学の学部教育の社会的役割が教育に変わった今、教育力のない大学・学部は社会的に無用であって、いずれ淘汰されます。

学生の基礎学力の低下は事実ですが、学力と能力とは別。大抵の学生は若いだけに成長力を持っています。課題は、私たちの教育力。本学部が『百年史』を刊行できるためには、教育力に磨きをかけることがカギ、と日々実感しています。

定年退職教員からの寄稿

弘大農学部・農学生命科学部での思いで

嵯峨 紘一

私が弘前大学に着任したのは全国大学闘争がほぼ収拾に向い、弘前大学では未だ紛争が継続していた1970年のことでした。その後の「連合赤軍事件」、「ベトナム戦争での米軍敗退」とともに、一般に学生の意識行動において大きな変化が見られ、時間の流れを実感いたします。

さて、この在職中を思い起こしますと、農学部時代にはスポーツ好きな教職員が多く、野球、ソフトボールさらにテニス等によく興じたことが大変印象深く残っております。特にソフトボールでは、農学部教官チームを作っては世代を超えて楽しんだものでした。ある年には、チーム中で最も運動能力に乏しい私が監督にまつり上げられ、全学の大会で当チームが優勝を果たすことになり、文京グラウンドにおいて胴上げされ、宙高くに舞うという人生最初で最後の大ハプニング(!)が起きました。実のところ、その当時野球を得意とする本学部事務職員の皆さんによる指示どおりしたまでのことで、それが優勝の決め手となったということですが・・・こんなエピソードも含めて本当になつかしく楽しく思い出され、その頃はまだのんびりとした時代だったように思われます。

1987年には文部省在外研究員として10か月間、アメリカ、カリフォルニア大学デービス校に滞在した折にお世話になった当地の日系プロフェッサーの皆様、またそこで同時期を過ごした日本の他大学からの先生達との出会いと交流など私の人生の中でもひとときわたくし楽しく有意義な時でした。

研究面では大学院生の頃に恩師より与えられたテーマであったトウガラシとのつきあいが年々深まり、特に本学着任時に奥瀬先生より紹介された「弘前在来トウガラシ(清水森ナンバ)」の研究をとおして地域の皆さんともつながりました。官民生産者そして私たち大学研究者とが一体となって立ち上げた「清水森ナンバブランド確立研究会」では、農水省より食料産業クラスターモデル事業



卒業生・修了生祝賀会場にて

と指定されたのは大変印象深い出来事となりました。この間、多く先生方より化学分析手法等教えて頂き、また野菜専攻の院生・学生と共同で行われたものでした。本当に感謝の限りです。そしてこの仕事が退職後も継続することとなり、文字通り私の人生の中でトウガラシが大きな位置を占めるようになったことも感慨ぶかいものがあります。

私にとって37年間の教育研究生活の中で最も大きな喜びは、教室に所属した全ての学生とともに実習で汗を流し、ともに遊び、ともに喜び、ともに悩み、ともに過すことができたことです。教室スタッフが3名から瞬時にして私1人になった折には学生達が一丸となって協力してくれました。多くの学生たちは卒業後も私の退職時まで力となってくれました。このように良き学生に恵まれたことは本当に幸せなことであつたとしてここに記さなければなりません。

今、受験生は減少し、大学も全入時代を迎えようとしております。出身の秋田県方面への高校訪問(営業活動?)もその昔には考えられなかったことでした。厳しい大学淘汰のうねりを横目にみながら大学を去ったわけですが、弘前大学農学部・農学生命科学部卒業生の皆様のこれからの一層の御発展を祈るばかりです。

農学生命科学部の今

研究・教育最前線

3回シリーズで農学生命科学部の今をお伝えする最終回

青山 正和

担当専門教育科目：土壌学、土壌資源学
 担当大学院科目：土壌生化学
 専門分野：土壌学
 主要研究テーマ：有機物施用土壌における有機物と微生物の動態に関する研究
 腐植物質の性状解明と環境修復への利用に関する研究

葛西 身延

担当専門教育科目：植物環境生理学、植物環境生態学
 担当大学院科目：同化物質輸送・分配論
 専門分野：植物環境生理学
 主要研究テーマ：植物のソースに関する研究
 植物のシンクに関する研究

生物機能科学科
植物エネルギー工学講座

齊藤 寛

担当専門教育科目：植物栄養学、植物生産機能利用学
 担当大学院科目：作物栄養学
 専門分野：植物栄養学
 主要研究テーマ：リンゴの窒素栄養生理
 ‘ふじ’の早生化した枝変わり品種
 “弘前ふじ”の生育特性

千田 峰生

担当専門教育科目：植物生理機能保存学、植物資源利用学
 担当大学院科目：生物工学方法論
 専門分野：植物分子遺伝学
 主要研究テーマ：黄大豆の種皮着色抑制機構に関する分子遺伝学的研究
 マメ科植物の種皮着色突然変異に関する分子遺伝学的研究

大河 浩

担当専門教育科目：光合成代謝学、植物生理生態学
 専門分野：植物分子生理学
 主要研究テーマ：植物の炭素代謝制御に関する基礎・応用的研究
 シアノバクテリアの炭酸濃縮機構に関する研究

片方 陽太郎

担当専門教育科目：生化学Ⅱ、微生物代謝制御工学
 担当大学院科目：応用生物化学
 専門分野：細胞生化学
 主要研究テーマ：細胞骨格レベルからみた細胞の分化異常
 植物細胞の細胞骨格と環境因子（ストレス、紫外線、大気汚染など）

菊地 英明

担当専門教育科目：細胞免疫学、ウイルス工学
 担当大学院科目：細胞工学
 専門分野：分子生物学
 主要研究テーマ：ダイオキシンによるヒト白血病T細胞株のアポトーシス誘導の研究
 オメプラゾールによるチトクローム P-4501A1 (CYP1A1) 誘導機構の研究

応用生命工学科
細胞工学講座

大町 鉄雄

担当専門教育科目：微生物化学、微生物遺伝子工学
 担当大学院科目：微生物遺伝子工学
 専門分野：生化学、分子生物学
 主要研究テーマ：細胞性粘菌における発分化と遺伝子発現機構に関する研究
 微生物変換法の分子機構とその応用に関する研究

石黒 誠一

担当専門教育科目：細胞工学、細胞制御工学
 担当大学院科目：細胞制御学
 専門分野：発生物学、視覚の生化学
 主要研究テーマ：ミトコンドリアカルパインの免疫組織化学
 ミトコンドリアに存在する新たなカルパインの性質

畠山 幸紀

担当専門教育科目：免疫生理学実験
 専門分野：免疫学、細胞工学
 主要研究テーマ：新しいがん細胞株の樹立、がん転移実験モデルとしての確立
 蛋白機能解析のためのモノクローナル抗体の作成

吉田 孝

担当専門教育科目：酵素化学、糖鎖工学
 担当大学院科目：糖鎖工学
 専門分野：酵素化学、糖鎖工学
 主要研究テーマ：微生物からの新しい糖質関連酵素遺伝子の探索と解析
 糖鎖を削る酵素・マンノシダーゼの触媒構造とタンパク質工学

佐原 雄二

担当専門教育科目：水圏生態学、動物行動学
 担当大学院科目：動物生態学
 専門分野：動物行動学、動物生態学
 主要研究テーマ：魚類の生態と行動を、特に捕食・被食関係の視点から研究
 魚の捕食者となる、魚食性鳥類の生態の研究

佐野 輝男

担当専門教育科目：植物ウイルス病学、病害管理学
 担当大学院科目：植物感染病理学
 専門分野：植物病理学、植物ウイルス病学
 主要研究テーマ：永年性作物のウイロイド・ウイルス性病害の検出と診断
 植物ウイルス・ウイロイドの病原性発現機構の解明

東 信行

担当専門教育科目：野生生物管理学、環境生物学
 担当大学院科目：保全生態学
 専門分野：動物生態学、生態工学
 主要研究テーマ：野生動物の保全
 海洋生物の生態・行動

藤田 隆

担当専門教育科目：植物病理学
 専門分野：植物病理学
 主要研究テーマ：栄養繁殖性植物のウイルス病に関する研究
 落葉果樹の病害に関する研究

比留間 潔

担当専門教育科目：昆虫管理学、昆虫生理学
 担当大学院科目：比較内分泌学
 専門分野：昆虫生理学、分子昆虫学
 主要研究テーマ：昆虫変態の分子機構

生物生産科学科
環境生物学講座

城田 安幸

担当専門教育科目：昆虫生物学、進化生態学
 担当大学院科目：進化生物学
 専門分野：分子生物学、行動生態学
 主要研究テーマ：動物の進化過程の実験的証明

田中 和明

担当専門教育科目：真菌学
 担当大学院科目：植物真菌学
 専門分野：植物病理学、菌学
 主要研究テーマ：子のう菌類の系統分類

高橋 秀直

担当専門教育科目：市場経済学、地域経済学
 担当大学院科目：地域社会経済学
 専門分野：市場経済論、地域経済学
 主要研究テーマ：地域社会と中小企業論

神田 健策

担当専門教育科目：協同組合学、国際農業論
 担当大学院科目：地域協同組合学
 専門分野：協同組合論、農業経済学
 主要研究テーマ：地域経済の再構成と協同組合
 中国の農業・農村・農民問題

地域環境科学科
地域資源経営学講座

武田 共治

担当専門教育科目：地域環境社会学、農村社会学
 担当大学院科目：環境社会学
 専門分野：農村社会学、環境社会学
 主要研究テーマ：日本農本主義研究
 環境社会学研究

宇野 忠義

担当専門教育科目：農業政策論、農業経営管理学
 担当大学院科目：農業経営管理特論
 専門分野：農業経済学
 主要研究テーマ：地域農業の担い手と農地流動化
 水田農法の「担い手」育成の条件と課題

澁谷 長生

担当専門教育科目：地域農業戦略論、地域農業戦略論演習
 担当大学院科目：地域資源管理学
 専門分野：農業経済学、組織論
 主要研究テーマ：農協と生協の提携に関する研究
 農産物の直接取引に関する研究

泉谷 眞実

担当専門教育科目：地域環境政策論、地域資源流通学
 担当大学院科目：資源循環流通学
 専門分野：農業市場学
 主要研究テーマ：地域農業における市場問題の発生メカニズムの解明

附属生物共生教育研究センター

塩崎 雄之輔

担当専門教育科目：農場実習、農業生態学
 担当大学院科目：果樹栽培技術論
 専門分野：果樹園芸学
 主要研究テーマ：リンゴの樹勢・整枝剪定・栽培方式に関する研究
 リンゴ白根の発生消長に関する研究

村山 成治

担当専門教育科目：農場実習、飼料作物学
 担当大学院科目：農業システム管理論
 専門分野：作物学、農場管理学
 主要研究テーマ：地域低利用資源の飼料化による牛肉の低コスト生産に関する研究
 水稻における投下エネルギー節減のための栽植法に関する研究

伊藤 大雄

担当専門教育科目：農場実習、農業生態学
 担当大学院科目：作物生産生態学
 専門分野：果樹園芸学、農業気象学
 主要研究テーマ：微気象学的手法を用いた樹園地のCO₂フラックス並びに蒸発散速度の観測研究
 リンゴ高次倍数体の作出

遺伝子実験施設

赤田 辰治

担当専門教育科目：生命理学実験Ⅱ
 担当大学院科目：遺伝子発現調節論
 専門分野：植物分子生物学
 主要研究テーマ：ブナ及びマメ科植物における環境適応性遺伝子の機能解析と多様性の研究

50周年記念誌「弘前大学農学生命科学部五十年史」が刊行されました

大幅に刊行が遅れておりました記念誌が平成19年3月30日に刊行されました。刊行が大幅に遅延致しましたことを深くお詫び申し上げます。50周年記念事業に際し1万円以上の献金を頂戴致しました会員の皆様には記念誌を3月末にお送り致しております。転居先不明でお届けできなかった方もおられます。もし、未着の会員がおられましたら、同窓会事務局までご一報下さい。

部数にいくらか余裕がございますので、ご希望の会員には送料込み6,000円（払込手数料は会員様のご負担となります）でお分けできます。お申し込みは事務局までお願い致します。

弘前大学農学生命科学部

五十年史



弘前大学農学生命科学部

平成18年度卒業生・修了生の祝賀会ならびに就職・進学先

平成18年度の弘前大学卒業証書授与式が平成19年3月23日午前10時から弘前市民会館で行われた。農学生命科学部の卒業生は187名であった。大学院の学位記授与式は午後1時から弘前大学創立50周年記念会館で行われ、農学生命科学研究科修了生43人に対して、修士（農学生命科学）の学位が授与された。平成18年度

末現在で、農学部と農学生命科学部を合わせての卒業生は5,648人に、研究科の修了生は農学研究科と農学生命科学研究科を合わせて617人になった。

授与式終了後、同窓会主催で恒例の記念写真撮影（校舎正面玄関前）が、学部・後援会との共催で祝賀会（大学会館）が行われた。



祝賀会光景

本年度の卒業・修了生の就職先および進学先は以下の通りである（括弧内に数字を記入した場合以外は各1名である）。以下に記す人数には平成18年9月卒業・修了者数も含まれる。

生物機能科学科（卒業生数38人）

ハクゾウメディカル(株)、マックスバリュ東北(株)、山崎製パン(株)、第一プロイラー(株)、(株)よつ葉乳業、六花亭製菓(株)、(株)テレウェイブ、割烹神谷、岩手県信用保証協会、警視庁、青森県警察、(株)青森銀行、(有)アーク、日本食研(株)、(株)十文字チキンカンパニー、(株)ソフ

テック、東邦薬品(株)、(株)サンデー、(株)セイコーマート(2)、東奥信用金庫、自治医科大学、北海道大学大学院(2)、弘前大学大学院(5)、東北大学大学院、自治医科大学大学院、千葉大学大学院、横浜国立大学大学院、名古屋大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、大阪府立大学大学院

応用生命工学科 (卒業生数54人)

山崎製パン(株)、(株)ヤマヨ、明治乳業(株)、(株)ロイズ
コンフェクト(2)、(株)A. R. C.、カメイ(株)、(株)すかい
らーくホールディングス、(株)カルラ、青森県警察、自営
(農業)、(株)みちのく銀行、(株)ヴィ・ディー・エフ・サ
ンロイヤル、(財)食品薬品安全センター、アース環境サー
ビス(株)、イワキ(株)、弘前中央青果(株)、ユニテックフ
ーズ(株)、ワダカン(株)、協同組合機能性食品開発センタ
ー、北海道大学大学院(4)、弘前大学大学院(17)、東北大
学大学院(2)、筑波大学大学院(2)、九州大学大学院(2)、
留学(アーカンソー大学)

生物生産科学科 (卒業生数64人)

自営(農業)、(株)林牧場(2)、山崎製パン(株)(2)、(株)東
京サウンドプロダクション、フコク情報システムズ(株)、
(株)トランスネット、(株)サカイ引越センター、(株)高速
ホームック(株)(2)、(株)アークス、JA 滋賀、全国農業協
同組合庄内支部、JA 相馬村、新函館農業協同組合、全国
農業協同組合連合会青森県本部、JA さがえ西村山、(株)
バックエックス、(株)アコーディア・ゴルフ、北海道庁、
青森県警察、農業生産法人 安愚楽共済牧場、(株)十文字
チキンカンパニー、伊藤ハム(株)、第一プロイラー(株)、
エステム(株)、(株)伊藤忠テクノソリューションズ、
NEC ソフトウェア東北(株)青森支社、(株)ヤマダイ、
(株)大田花き、マックスパリュ北海道(株)、ワタミ(株)
(2)、東北大学、弘前大学大学院(13)、千葉大学大学院、
東京大学大学院、東京農工大学大学院、鳥取大学大学院

地球環境科学科 (卒業生数37人)

(株)増川プロジェクト技建、(株)復建技術コンサルタント、
セントラルコンサルタント(株)、太陽コンサルタント(株)、
(株)一真ワークス、第一プロイラー(株)、(株)イオン食品、
キリンビール(株)、NEC ソフトウェア東北(株)、山陽電
気鉄道(株)、(株)サンデー、ホクレン農業協同組合(2)、
関東農政局整備部、農林水産省、北海道庁宗谷支庁、盛岡
市役所、青森県警察、新潟県庁、東京消防庁、津軽市、東
亜石油(株)、(株)ダイナム、弘前中央青果(株)、東北ユー
ザック(株)、(株)ルートインジャパン、岩手北部農業共済
組合、弘前大学大学院(2)、京都大学大学院

大学院農学生命科学研究科 (修了者数45人)

(株)東京めいらく、タカナシ乳業(株)、クミアイ化学工業
(株)、東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学
研究センター、自営業、トモエ化学工業(株)、(株)カルラ、
独立行政法人 国際農林水産業研究センター、WDB エウ
レカ(株)、(株)EC ホールディングス、昭和化学工業(株)、
M&C ビジネスシステムズ(株)、J-TEC(ジャパンティ
ッシュエンジニアリング(株))、(株)千代田テクノロ、(株)
ムトウ、(株)イオプラネット、アース環境サービス(株)、
森産業(株)、(株)ニッピ、日本クレア(株)、太子食品(株)、
日本化学工業(株)、(株)フォーラムエンジニアリング、東
北緑化環境保全(株)、中央酪農会議(社団法人)、ホームマ
ック(株)、(財)リバーフロント整備センター、盛岡地方検察
庁、(株)ユニバース、(株)アサンテ、(有)津軽田園開発リ
ース、独立行政法人 中小企業基盤整備機構、岩手大学大
学院(4)、名古屋大学大学院

農学生命科学部創立50周年記念事業 収支決算報告書

1. 収入の部

費 目	決算額 (円)	備 考
醸 金	16,403,000	平成19年5月18日振り込み分まで (積算人数807名)
祝 賀 会 会 費	104,000	13名
同 ご 祝 儀	220,000	18名
合 計	16,727,000	

2. 支出の部

費 目	決算額 (円)	備 考
式典・祝賀会等	2,037,138	内訳 100,000 シンポジウム謝礼・旅費 (5名分) 150,000 式典記念演奏 (弘大フィル) 100,000 特別講演謝礼 1,542,840 祝賀会費用 (シテイ弘前ホテル) 5口以上醸金者 (159名) の会費を含む 94,000 弁当、酒代 (祝賀会用) 25,298 消耗品代 (レンゴウ事務機、弘前大生協) 25,000 人件費 (学生、運転手)
記 念 誌	2,054,640	記念誌の印刷代、送料
地域振興支援事業	7,500,000	平成17年度分
	3,418,342	平成19年度分 (現在、寄付の手続き中)
事 務 経 費 等	1,716,880	内訳 920,289 趣意書 (第1回および第2回分) 印刷費、送料 5,880 企業への特別研究依頼書送付 3,200 学生のアルバイト 2,120 元職員、卒業生等醸金依頼 525 特別研究振り込み手数料 (りんご協会) 75,050 醸金振り込み手数料 (平成19年3月31日振り込み分まで) 42,000 慰労会補助 636,866 第3回趣意書等の印刷、発送代 525 特別研究振り込み手数料 (同窓会分、領収書9) 24,000 名簿整理、袋詰め等アルバイト代 5,900 記念誌の再送付送料 525 特別研究振り込み手数料 (手続き中)
合 計	16,727,000	

現在、平成19年度分地域振興支援事業への寄付手続きを行っておりますが、書類が会報発行に間に合いませんので、書類が整い次第、最終の会計監査を受け、本事業の終了と致します。

新任教員の自己紹介



大河 浩 准教授 (植物エネルギー工学講座)

愛知県出身で、名古屋大学大学院生命農学研究科生化学制御専攻博士(後期)課程修了後、日本学

術振興会特別研究員、Washington Univ. 博士研究員、農業生物資源研究所特別研究員を経た後に、

2006年6月より、ここ弘前大学に着任いたしました。専門は、植物分子生理学で、光合成及び炭素代謝に関する研究をしております。新しい環境で戸惑っておりますが、ここ弘前で活気ある学生達と共に互いに成長しながら、更に研究を展開していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



柏木 明子 准教授 (生体機能工学講座)

平成19年5月1日に農学生命科学部に赴任いたしました。桜の満開と共に弘前での生活をスタートできましたことを大変うれしく存じます。今まで

は分子生物学的手法を用い、実験室内進化系を構築し、生物の多様性の維持、環境適応のメカニズムなどに関して研究をして参りました。青森県は関西出身の私には遠い県でしたが、未体験の文化や自然に触れながら、自然科学に貢献していきたいと存じます。よろしくお申し上げます。

教員人事

平成19年4月1日以降「助教授」は「准教授」に、「助手」は「助教」に名称変更されました。

退職

平成19年3月末

長田 恭一 助教授 (生体機能工学講座)

嵯峨 紘一 教授 (園芸学講座)

新任

大川 浩 助教授

(植物エネルギー工学講座)

平成18年6月

柏木 明子 准教授 (生体機能工学講座)

平成19年5月

昇任

石田 幸子 教授 (遺伝情報科学講座)

平成18年10月

千田 峰生 助教授

(植物エネルギー工学講座)

平成18年9月 (遺伝子実験施設助手から)

渋谷 長生 教授 (地域資源経営学講座)

平成18年10月



会費納入と住所通知のお願い

平成19-20年度会費5,000円を、同封致しました振込用紙で、お納め下さいますようお願い致します。なお、既に平成19-20年度会費をお納め下さいました会員様には振込用紙を同封しておりません。転勤や転居で住所が変更になりましたら、事務局までご一報下さい。

同窓会事務局

〒036-8561 弘前市文京町3 弘前大学農学生命科学部同窓会

工藤 明	電話 0172-39-3842 (FAX 兼用)	E-mail akudo@cc.hirosaki-u.ac.jp
戸羽 隆宏	電話 0172-39-3786	E-mail ttakki@cc.hirosaki-u.ac.jp
加藤 幸	電話 0172-39-3869 (FAX 兼用)	E-mail kato@cc.hirosaki-u.ac.jp

訃報

吉良 一郎先生 (元教授、農業工学講座)	工藤 (旧姓成田) 賢郎様 (作物昭35年卒)
横山 宏 様 (農製昭28年卒)	長尾 信義 様 (作物昭38年卒)
柳谷 烈 様 (畜産昭33年卒)	杉山 五朗 様 (農製昭38年卒)
永沼 昌雄 様 (農経昭33年卒)	対馬 信行 様 (造施昭50年卒)
西田 嘉治 様 (土肥昭35年卒)	永野 道雄 様 (造施昭53年卒)
竹村 恵 様 (農工昭35年卒)	小寺 和広 様 (作物平2年卒)

上記の会員がご逝去なさいました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

総会開催のお知らせ

平成19-20年度総会を下記の通り開催致しますので、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

日 時	平成19年7月7日 (土) 午後3時~4時	
場 所	青森県黒石市大字乙徳兵衛町34 「グリーンパレス松安閣」	電話 0172-52-3850
議 題	1 平成17-18年度事業報告 2 平成17-18年度会計報告 3 平成19-20年度事業計画 4 平成19-20年度予算 5 その他	

なお、総会終了後、懇親会 (会費3,000円) を行います。ご出席下さいます会員におかれましては、準備の都合がございますので、ご面倒ながら、6月25日までに、事務局までご一報下さい。

事務局担当者 戸羽 隆宏 電話 0172-39-3786 E-mail ttakki@cc.hirosaki-u.ac.jp

一部、卒業生の皆様に、「弘前大学同窓名鑑」作成のための調査カードが届いているようですが、この名鑑作成に当同窓会ならびに弘前大学同窓会は関わっておりません。

写真でみる農学生命科学部この1年



オープンキャンパスが行われ多数の高校生が訪れた (2006年8月8日)



収穫祭 (総合文化祭) が行われ、訪れた市民で賑った (2006年11月3-5日)



この冬は昨年の大雪とは対照的に暖冬・少雪だった (2007年2月9日撮影)



藤崎農場でリンゴとチューリップのフェスティバルが行われた (2007年5月12-13日)



校舎内の廊下が広がった (2007年3月末撮影)

最新の情報は同窓会ホームページでご覧下さい (<http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/>)